

# トヨタ芸術環境KAIZENプロジェクト

採択企画

## 「ITを活用した、アートマネジメントセミナー等のネット配信」 マニュアル

2009年2月

NPO法人FPAP



## はじめに

「IT を活用した、アートマネジメントセミナー等のネット配信（通称:ネットセミナー）」は、舞台芸術環境の地域間格差の緩和を重点テーマとして企画いたしました。

現在、アートマネジメント関連の各種セミナーは、アートマネージャーの多くが所在する首都圏で多く開催されています。今後、地域分権へと移行するにあたり、舞台芸術環境の地域間格差を緩和するためにも地域において優秀なアートマネージャーを育成していくシステムが必要とされています。

そこで、アートマネジメント関連のセミナーを他都市へインターネットのライブ中継でネット配信する企画を提案いたしました。

この企画がトヨタ芸術環境 KAIZEN プロジェクトに採択され、2008 年 11 月に東京でおこなわれたアートマネジメント向けのセミナーを、実際に国内 5 地域へネット配信しました。

この企画の実現の結果、セミナーのネット配信についてのマニュアルを作成いたしました。

音声・映像の質についてまだ向上の努力の余地はありますが、このネット配信は、できるだけ小さなコストで、他都市などより多くの表現者・アートマネージャーへ発信するツールとして利用できます。

当マニュアルを、セミナーのインターネット配信をお考えの方にご活用いただけましたら幸いです。

2009 年

NPO 法人 FPAP

## 【ネットセミナーについての留意点】

### ■受信・配信

- スカイプ等の操作音、マウスのクリック音・パソコンの起動音等はミュートにしておいた方がよいです。  
→パソコンの音声を一括でミュートにすると、受信した音声がかき消えるので注意！
- 使用するインターネット回線は、ブロードバンド回線推奨。無線より有線のほうが安定しています。  
→イーモバイルはギリギリセーフというところですが、ファイアウォールやセキュリティの設定によっては、ustream、スカイプ等のサービスの利用ができない場合があります。
- 受信会場では音声と映像のタイムラグが生じることがあります。  
→タイムラグは回線の状況等によってかわってきますが、長時間配信では音声と映像のタイムラグが積み重なっていきます。その場合は、一度の配信を中断、再度配信しなおすとタイムラグがリセットしますので、30分ごとや1時間ごとなど、こまめに休憩をはさんで配信しなおすのが望ましいです。
- テクニカル面が不安な場合は、プロの方にサポートをお願いするとよいでしょう。
- カメラはアップができるものを使ったほうがよいです。
- ウェブカメラではなく、ビデオカメラでネット中継すると、さらに動きが出るでしょう。
- エアモニターではなく、スピーカー置いて音を出すとよいでしょう。

### ■広報での注意

- 回線の都合上、映像や音声がとぎれることがあります。映像や音声はYouTube程度であることを伝えたほうがよいです(チラシやサイトに「映像・音声の品質は、YouTube程度となります。当日の回線状況によっては、映像・音声が一部乱れる可能性もあります。ご了承ください」と表記するなど)。

### ■打ち合わせ

- セミナーの内容を把握しているほうが、情宣がしやすいため、セミナーのゲストとの打ち合わせの様子をスカイプ等で双方向通信するか、議事録をまとめて各地域担当者に渡すなどするとよいです。
- 実験の段取りをスムーズにしておきましょう。
- ネット中継の練習時間をとること。全地域一緒の練習は本番、当日のリハーサル含めて2～3回だと少なめです。

### ■セミナー当日

- 映像や音声がとぎれたり乱れたりする可能性があることを、セミナー前にも説明したほうがよいです。また、そのとき、映像や音声途切れても続きから始まるので心配いらない、ということも説明したほうがよいです。
- 中継の前に、各会場でセミナーについての簡単な説明など、なごやかな雰囲気作りをするとよいです。
- 生でセミナーを受けるより集中力が必要になります。セミナーの時間は1時間以内くらいにするなど、短めがよいです。
- ネット中継の画像が鮮明ではなく、音声途切れる心配がある場合は、資料は紙ベースの方が安心です。
- 拠点で受信する場合、セミナー終了後、受信会場それぞれで話す時間をつくるなど、参加者同士の交流の場をぜひ設けてください！

## ■画面に映すものの位置

- トークゲストの表情が見えるように。遠くの会場にいる受講者にも語りかけるような絵で見られるようにするとよいです。
- 各地の映像が会場内に映っていると、臨場感ができます。
- 発信会場は、中継されていることの実感がなく、反応が見えない分不安です。進行役にだけでも、中継されている映像モニターがあるとよいでしょう。
- アングルを変えない状態での映像をずっと見ているのは聴衆にとっては変化に乏しいです。

## ■進行(やりとり)

- 「あなたを認識してますよ」の合図のため、最初に各地域へ呼びかけてもらいます。
- 質疑応答は、発信地域会場の進行の方に「聞こえてますよ」ジェスチャーをしっかりとってもらうことが必要です。スカイプだと自分の話している声は聞こえないためです。
- せっかくネットで繋がっているので、質疑応答をいれるとよいでしょう(各会場との質疑応答時が一番緊張しますが！)。発信会場に、質問者や会場の雰囲気映像を伝えるとよいです。
- 音量調整が難しいです。
- セミナーの一体感を出すため、受信側各会場の様子を映像でうつすとよいでしょう。
- 講師との距離があるので、アイスブレイクが通常のセミナーよりは難しいです。

## ■司会

- 質疑応答では、ネット配信者から司会者に受信会場の状態を詳細に伝えること。司会進行をやりやすくするためです。
- 各地との絡みの時間をたっぷりするとよいです。例えば、開始のときに、「札幌の××さん、仙台の△△さん、始めますよー」のような、呼びかけをすることも必要です。
- ネットセミナーならではの演出を考えること。
- 受信会場の様子が発信会場から見えないと、司会者は、中継地の参加者が具体的に何の話でうなずき笑っているか、聞き入っているか、反応やニーズが分らず、会場の目の前の参加者の反応を見ながら話を進めることになります。受信会場の参加者が「発信会場を傍観している」状態になってしまわないように注意しましょう。同じセミナーを聞きながら、疎外感を持たないように。
- 発信会場の参加者も、受信会場からの質問の声が聞こえると、自分たち以外に聞いている人がいるという拡がりを実感できます。発信地と中継地の双方で互いの映像が見られると、「同じ話を同時に聞いている」という一体感が生まれます。
- 発信会場と同じような参加度(質問が自由にできる等)が受信会場にあることが望ましいです。例えば、あるエピソードに、ここはあまり反応がないが、ほかの地域で反応があれば、司会者は「××では、受けてますね～、このあたりもう少しお話を聞いてみましょうか」という感じで進行に各地の参加者を巻き込むことができます。

## 【セミナー当日までのスケジュール】

ネットセミナー全体スケジュール(例)

何日前に	日付	発信会場	受信会場
140	2008年 12/21	ネットセミナー配信内容(コンテンツ)決定 受信地域募集	
120	2009年 1/10		ネットセミナー受信希望を発信会場に伝える
110	1/20	ネットセミナー受信地域決定	
100	1/30	担当者 PC 間で個別に映像の発信・受信実験	担当者 PC 間で個別に映像の発信・受信実験
90	2/09	発信会場のインターネット環境確認・会場決定	受信会場のインターネット環境確認・会場決定
80	2/19	ネットセミナー実施日決定	ネットセミナー実施日決定
70	3/1	全地域揃って、担当者 PC 間で映像・音声の発信受信実験(顔合わせをかねて)	
60	4/10	セミナー情報公開サイト確認・修正	セミナー情報公開サイト確認・修正
55	3/16	セミナー申込者返信メール完成	セミナー申込者返信メール完成
52	3/19	セミナー情報公開サイト完成	セミナー情報公開サイト完成
50	3/21	セミナー情報公開・参加者募集開始	
30	4/10	当日進行役決定	当日進行役決定
20	4/20	受講者数状況確認	受講者数状況確認
15	4/25	全地域揃っての映像・音声の発信受信実験、当日の進行打ち合わせ	
10	4/30	当日配布資料を受信地域へ送付	
2	5/8	受講者にリマインドメール	受講者にリマインドメール
0	5/10	ネットセミナー	
10	5/20	アンケート集計	アンケート集計
30	6/9		コンテンツ料支払い

- このスケジュール案は一例です。
- 一般公開しないなど失敗のリスクが低い場合は、最短でやれば 30 日前からの準備でも実現できると思われれます。

## 【ネットセミナーに必要な設備・道具】

### ■発信側

設備・道具	備考
▼最低限必要なもの	
インターネット環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロードバンド回線推奨。無線より有線のほうが安定しています。</li> <li>イーモバイルはギリギリセーフというところですが。</li> <li>ファイアウォールやセキュリティの設定によっては、ustream・スカイプ等の利用ができない場合があります。</li> </ul>
パソコン (音声・映像の配信用)	ustream、スカイプ等用。 ※ustream・スカイプ等が両方同時に使えるスペック
WEBカメラ	デジタルビデオカメラがあればいい。
▼できればあるといいもの	
ハブ	回線を分けるため。
LAN ケーブル	パソコンにつなぐ。
デジタルビデオカメラ (配信用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>USB ストリーミング機能がついているもの(セミナーの音声・映像用)。</li> <li>ピントをきちんとあわせて講師の顔をはっきり写したり、ズーム・アウトができたりなど、WEBカメラよりも臨場感のある映像になります。</li> </ul>
スピーカー	受信した音を会場内に流すため。
ケーブル	パソコンとスピーカー等をつなぐ。
マイク	必要な場合。

### □受信側

設備・道具	備考
▽最低限必要なもの	
インターネット環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロードバンド回線推奨。無線より有線のほうが安定しています。</li> <li>イーモバイルはギリギリセーフというところですが。</li> <li>ファイアウォールやセキュリティの設定によっては、ustream、スカイプ等の利用ができない場合があります。</li> </ul>
パソコン(音声・映像の配信用)	ustream、スカイプ等用。 ※ustream・スカイプ等が両方同時に使えるスペック
WEBカメラ	WEBマイクでもOK。
▽できればあるといいもの	
ハブ	回線を分けるため。
LAN ケーブル	パソコンにつなぐ。
パソコン(もう一台)	こちらのパソコンをスカイプ等用として利用。(質問時の音声・セミナー中のチャット用)
スピーカー	受信した音を会場内に流すため。
スクリーン・プロジェクター	受信した映像を会場内に流すため。テレビでも可。
ケーブル	パソコンとスピーカー・プロジェクター等をつなぐ。
マイク	必要な場合。

- 技術を持った方がいれば安心ですが、以下の知識があれば大丈夫です。
  - パソコンやテレビをスピーカーにつないで音を出す。
  - パソコンをプロジェクターやテレビにつないで映像を出す。
  - 個人で、スカイプ等の通信ができる。
- 映像音声を配信するのに、以下のサービスのいずれかが必要となります。
  - ustream.tv(1カ所の映像音声を複数会場へ発信するのに向いています) <http://www.ustream.tv/>
  - Windows Live メッセンジャー(1対1の映像音声の発信に向いています) <http://messenger.live.jp/>
  - スカイプ(複数会場でのチャット、1対1の映像音声の発信に向いています) <http://www.skype.com/intl/ja/>

## 【ネットセミナー主な予算項目】

### ■ 発信側

内容	備考	金額
収入		
コンテンツ料	各地域に発信する場合、各地域からコンテンツ料としての収入を見込むことができます。	ケースバイケース
支出		
デジタルビデオカメラ またはWebカメラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• すでにある場合は不要です。</li> <li>• パソコンに接続出来るデジタルビデオカメラは Web カメラと比べ高額になりますが、アップ等が出来るため、受信会場により臨場感のある映像をおくることができます。</li> </ul>	3,000～50,000 円
施設使用料	有料の施設を使う場合は必要になります。	ケースバイケース
配布資料コピー代		ケースバイケース
当日茶菓代	受講者に茶菓等を出す場合は必要になります。	ケースバイケース
講師報酬	セミナー等で、講師に報酬を出す場合は必要になります。	ケースバイケース
チラシ印刷・配布	一般公開の場合、広報に要する費用が必要になります。一般公開しない場合などは不要です。	ケースバイケース

### □ 受信側

内容	備考	金額
収入		
受講料	参加者から受講料等を徴収する場合は収入としてカウントできます。	ケースバイケース
支出		
Webカメラ	受信会場の音声映像を他会場にとどける場合は必要。	3,000～円
施設使用料	有料の施設を使う場合は必要になります。	ケースバイケース
当日資料コピー代	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 発信側がパワーポイントを使うときなどは、紙の資料で同じものを配布するのがよいと思います。</li> <li>• 講師の映像とパワーポイントの画面を切り替えて受信するのは、技術的にハードルが高いです。</li> </ul>	ケースバイケース
当日茶菓代	受講者に茶菓等を出す場合は必要になります。	ケースバイケース
コンテンツ料	発信会場に支払いが必要な場合。	ケースバイケース
チラシ印刷・配布	一般公開の場合、広報に要する費用が必要になります。一般公開しない場合などは不要です。	ケースバイケース
打合せ経費	事前打合せのための旅費等が必要になる場合があります。われわれのセミナーでは、福岡から1名が1回東京に行きました。	ケースバイケース

- チラシ配布の広報を行わず、無料の施設で行う場合は、費用を限りなくゼロに近づけることができます。
- ネット回線・パソコンはあるという前提での予算項目です。

# 【当日タイムテーブル】

ネットセミナー当日スケジュール(例)

※FPAP 実施事例より

時	発信会場	各受信会場	○○	●●	△△	▲▲	準備するもの・備考
13					茶菓 買出し	配布資料 コピー	茶菓(お茶、紅茶、コーヒー、お菓子)、セミナー配布資料、アンケート、ペグシル
14				机・イス 並べ	茶菓 準備	PCセッティ ング・スク リーン準備	PC2台、スクリーン、LANケーブル、ハブ、プロジェクター、机、イス
						会 場 内 準 備・映像音 声チェック	ポット、コーヒーメーカー
15						配線整理	動線の邪魔にならないようにケーブルを整理、養生。
16	00:映像・音 声チェック (30分ほど)	00:映像・音声チ ェック(30分ほど)		資料セッテ ィング	資料セッティ ング	00:映像・音 声チェック	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペグシルとともに、資料を配布できる状態に。</li> <li>発信会場と受信会場で映像・音声の送受信チェック。</li> </ul>
			45:音声最 終チェック				<ul style="list-style-type: none"> <li>発信会場と受信会場の司会進行による質問等の練習。</li> <li>終了したら一旦通信終了。</li> </ul>
17			最終確認・ 打合せ	最終確認・ 打合せ	最終確認・ 打合せ	最終確認・ 打合せ	
	45:配信開始	45:受信開始 (ガイダンスから中 継の場合)		受講者がきたら座ってもらう 参加費をもらう		45:受信開 始	50:事前アナウンス 55:受信会場で開始のあいさつ
18	00:第1部 文化庁ガイダ ンス開始				記録写真 撮影		デジカメで記録写真撮影。
		30:受信開始 (報告会から 中継の場合)	55:会場あ いさつ・進 行				
19	00:第2部報 告会開始		ネットセミナー				<ul style="list-style-type: none"> <li>音の大きさ・映像の受信状況などを随時確認。</li> <li>何かあればスカイプチャット等で情報共有。</li> </ul>
20	00:ネットセミ ナー終了・休 憩 10:スカイプ 等通信開始	ネットセミナー終 了次第、会場内で 質問集め 10:スカイプ等通 信に音声切り替え	質 問 の 進 行			10:スカイプ 等音声切替	受信会場からの質問は、各会場の進行役がスカイプ等を使って話す。
	45:映 像 配 信・スカイプ 等通信終了	45:映像受信・ スカイプ等通信 終了		終了後、ア ンケート回 収	終了後、ア ンケート回 収	通信終了	終了したら、すぐ通信終了。
21	00:報告交流 会終了		懇親会へ	懇親会へ	撤収	撤収	
					懇親会へ	懇親会へ	

## 【企画終了後の「ふりかえり」の中で出た所感】

東京と各地域の人口比でいうと、各会場とも 5 人位集まればいいほうだと思っていましたが、各会場とも当初考えていたよりも多くの受講者が集まりました。

受講した動機は、海外研修制度に興味をもっていたり、ゲストの話を聞いてみたいということであったり、ネットセミナーという手法に興味をもったりと、さまざまでしたが、より多くの知識を得たいという意識の高い表現者・アートマネージャーが地域にもいることを示していると考えられます。

知識を得たいと感じている表現者・アートマネージャーが遠方のセミナー会場に行くというのは時間的・金銭的観点から考えても、どうしても数が限られてしまいます。

また、その地域の人に聞いてもらいたいということでゲストを他地域から招いてセミナーを地域で行っても、十分な受講者が集まらなかったり、ゲストの交通費がかかったり、コストがかかりすぎることもあります。コストの点からみても、ネットセミナーという手法を使って同じセミナーをいくつもの地域で同時に受けることができるようにするというのは、より多くの表現者・アートマネージャーへ発信することとして有効だと思いました。セミナーをネットで受信するというのは家庭など、個人でもできますが、地域の拠点となる会場で受信し、集まってネットセミナーを受講することで、同じ地域に同じようなことに興味を持っているひとがいるということを感じ、交流することができます。

コンテンツや希望者の住んでいる地域などによって、個人で受信するもの・拠点で受信するもの、と両立させたり使い分けたりしていくことができると感じました。

他にも、今回のネットセミナーで、東京会場で受信会場の声 flowed 瞬間に会場の空気が変わったという意見がありました。

企画段階では意図していませんでしたが、東京のアートマネージャーが、地域を意識するきっかけにもなったようです。

### ■その他の意見

- 傍観者から参加者へ。
- 地域と東京との創造環境その他の格差の改善ならば、定期化が必要。
- ある団体のセミナーを、あらかじめ各地域がそれぞれに地域に必要なもの、興味のあるもの、日程的に都合のいいものを選択してネットセミナー開催、ということが理想。
- 地域の場合、報告書等の文字情報だけではなく、生の声を聞いて情報を収集するためには、時間と費用が必要。それがアーティストの活動の場を広げる妨げになっているのだとしたら、この現状を補完する意味でも、ネットセミナーは意義がある。
- 生中継よりは講座の映像がアーカイブ化されているほうが、現段階では魅力的か？
- 目の前で講師が話すのに比べて、話の雰囲気・ノリが伝わりにくいため、自分が興味を持っていたり、共感できる情報でないと 1 時間以上に渡って集中して聞くのが難しい。
- 多数のプログラムの中から自分の興味があるテーマを自由な時間に見られるほうが適している。
- 回線などの問題が生じると、双方向性を最大限に生かすことは難しい。
- 自分たちの状況を講師に説明して意見を求めたり、簡単に討論できるぐらいだと非常にいい効果がある。単発の質問は、事前にメールなどで送っておくなどで伝えられるし、似たような質問をする人が本会場にいることも多い。

- 今後は、地域のニーズも取り入れたコンテンツの工夫や通信技術の研究など、改善すべき点に取り組む必要がある。歩みを止めることなく、問題点を改善しながらこのシステムを継続していくことが、地域間格差を縮める上でも重要になると考える。
- トーク系のものなどで「これは他の地域の人に聞いてもらえたらいいな」と思った時に気軽に聞けるようにできるとよい。
- 個人で受信も可能だが、同じ地域に同じ関心を持つ人がどのくらいいるのか、ということを知るためにもみんなで集まって受信する形式がよい。

## 【これからの課題解決にむけて】

配信の方法自体は、簡単なパソコンやインターネットの知識があればできる程度のものです。技術を持った方がいれば安心ですが、特に技術を持った方でなくても、マニュアルを見ながら作業すれば、配信や受信をすることができます。

音質については許容範囲だと考えますが、その向上についてまだ努力の余地があります。その他の映像の質、回線については将来的な技術の発展を待つことができると考えます。

広報面の負担が大きいと考えられるので、最初はインターネット・ロコミを中心とした受講者集めをし、できるだけ気軽に・簡単にできる状態で続けていくことで、徐々にネットセミナーというツールの認知度をあげていき、受信や発信の拠点となる地域を増やしていけるのではないかと考えています。

受信や発信の拠点となる地域が増えれば、東京発信だけではなく、地域から全国へ向けて発信するためのツールとしても利用できます。

今回の1回のネットセミナーでアートマネージャーの研修環境の改善ができるとは考えませんが、今回をきっかけに、ネットセミナーという方法を使い続けていくことで、将来的に地域間格差の緩和や地域間の交流を促し、芸術環境の改善につなげていくことができると感じています。

「ITを活用した、アートマネジメントセミナー等のネット配信」マニュアル

2009年2月25日発行

執筆・制作・編集:

NPO 法人 FPAP(福岡パフォーミングアーツプロジェクト)

〒812-0038 福岡市博多区祇園町8番3号

TEL:092-262-5027 FAX: 092-262-5047 (ほんぷらざ)

助成:トヨタ芸術環境 KAIZEN プロジェクト

マニュアルを実際に使ってみてのご意見・ご感想などを下記アドレスまでぜひお寄せください。  
今後の活動の参考とさせていただきます。

[info@fpap.jp](mailto:info@fpap.jp) (NPO 法人 FPAP)